

# 親 師 会 報

第 159 号

発行  
新潟県立新津高等学校  
親 師 会  
☎0250(22)1920

## 会 長 挨拶

親師会長

因

俊 行



会員の皆様には日頃より親師会の活動を温かく支えていただき、心より感謝申し上げます。

本年度を振り返ると、生徒たちがそれぞれの場面で生き生きと活躍する姿が多く見られ、学校という場が持つ力を改めて感じる一年となっています。

9月の秋陵祭では親師会企画として、昨年よりもバージョンアップしてキッチンカー2台を含む3店舗を出店させていただきました。各店舗前では常に笑顔と美味しそうないい匂いにあふれ、閉店間際まで生徒の長い列が続きました。仲間と楽しそうに並び、味わい、語り合う生徒の姿は、文化祭という時間が持つ特別な雰囲気を醸し出していました。

10月の人権講話では、「私たちの身近にある人権問題」をテーマにお話しいただきました。世界規模の課題としてだけでなく、日常の小さな場面に潜む気づきに目を向けるきっかけとなり、生徒たちが真剣に考える姿が印象的でした。

11月には、秋陵会と親師会が共催する「文化講演会」が行われ、【激動する社会に自分らしく漕ぎ出ていくために】というテーマのもと、法政大学キャリアデザイン学部教授の児美川先生からご講演いただきました。ひとりひとりが自分で判断するための視野の広げ方や心構えについて研鑽を深め、講師の言葉に真剣に耳を傾ける生徒たちの姿からは、これからの時代を生きていく若者らしい力強さを感じられました。

この会報が皆様のお手元に届く頃には、3年生は自身の進路に向けて目標を定め、受験本番に向けてそれぞれの一歩を踏み出している頃だと思います。不安と期待が入り混じる苦しい時期ではありますが、自らの選んだ道を信じ、努力してきた自分を信じて邁進して行ってほしいと願っています。

3学期は、親師会にとっても1年のまとめの時期となります。来年度へ確かなバトンを渡せるよう、残りの活動に誠心誠意取り組んでまいります。引き続き、会員の皆様からのご協力と変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

## 非認知能力の育て方について

校長 小林 英 明



保護者の皆様には日頃から本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、私は10月16日・17日に開催された「全国普通科高等学校長会総会・研究協議会（香川大会）」に新潟県代表理事として参加してきました。記念講演では、「これからの時代を生きるために必要な非認知能力の育て方」という演題で、All HEROs合同会社代表で元岡山大学

准教授の中山芳一氏のお話を聞きました。講演で印象に残っていることを紹介したいと思います。

認知能力とは、共通の尺度で点数や数値にして評価・測定できる能力（見える学力）のことです。非認知能力とは、共通の尺度で点数や数値にして評価・測定できない能力（見えない学力）のことです。自制心、忍耐力、回復力、意欲、向上心、好奇心、自信、自尊感情、楽観性、コミュニケーション力、共感性、社交性、協調性、リーダーシップなどたくさんある力の総称で、個別の尺度で主観的に評価・測定はできます。中山先生の主張は、非認知能力を生かせば、認知能力も高められ、両方を一体的に伸ばしていくことが大切ということです。

非認知能力は、「自分と向き合う力」「自分を高める力」「他者とつながる力」の3つのグループに大別されます。行動を見取って評価する際、評価の信頼性が高いのは、やり始めた行動より続けている行動、さらにそれより習慣になった行動ということです。自分のことを客観的に見られるようになると、望ましい行動を選択して表に出そうとすることができるようになります。つまり、自分自身をモニタリングして、意識して行動をコントロールすることで、それを習慣にできれば、非認知能力は自ら伸ばすことができるのです。近代心理学の父ウィリアム・ジェームズの理論に基づいた「意識が変われば、行動が変わる。行動が変われば、習慣が変わる。習慣が変われば、人格が変わる。」という言葉は有名です。モニタリングとコントロールは、「メタ認知」とも呼ばれ注目されています。

精度の高いモニタリングのためには、振り返り（リフレクション）を生かすことがお勧めとのこと。教師は日常적인見取りとフィードバックで意識づけを行い、生徒自身も自らフィードバック（振り返り）を行いながら取り組むといいです。そして、意図的な仕掛けにより生徒の感情が動くと、主体的・対話的で深い学びにつながり、記憶にも残ります。認知能力を獲得・向上していくうえで、その過程の中で非認知能力を鍛えて発揮するようになりましょうと、中山先生はおっしゃっています。

結びになりますが、これからは生徒が非認知能力を高め主体性を発揮するような学校づくりが今まで以上に大切です。今後とも保護者の皆様、学校、地域などが力を合わせて取り組んでいきたいと思っておりますので、一層のご支援を賜りますようお願いいたします。

## 進路指導室より

進路指導主事 小林 穰

## ○1,2学期を終えて

1年生は初めての高校生活の大半を終え、入学したばかりなのに卒業後の事を考えなければならないことに驚いたことでしょうか。将来の進学先に向けて力をつけると同時に、自分の目標を設定し、その目標達成のための原動力としなければなりません。学校ではさまざまな将来像があることをできる限り紹介し、少しでも生徒が興味を持てる学問分野や職業を見つけてもらえるようにさまざまな取り組みを行っています。しかし近年の社会における「仕事」は単純に職業名で表せない仕事を行っている人々の活躍が目立っています。大事なことは「職業名」という箱の中に入って安心するのではなく、自分に何ができるのかを知り、他人にはない自分の誇れる力を活かした仕事をするということです。まだ何をすればよいかかわからないと思う人が多くいると思いますが、それならば学習に専念して多くの知識を身に付け、自分の土台となる力を膨らませてください。最近では理系の製造分野にも文系の経済分野の知識が必要になってきたり、文系分野でも理系のデータ分析能力が必要になったり、理系と文系の垣根を越えた学問知識の融合が進んでいます。また、大学もそういった学部学科の編成を進めているところが多くなってきています。「これだけはやる」、ではなく「幅広くさまざまな学問に興味を持てる」ようになって欲しいと思います。

2年生は高校生活の半分が終わりました。2年生の3学期は「3年0学期」と称され、この冬の時期の過ごし方と気持ちの持ち方が合格を左右すると言われていています。特に「大学に進学する」ことをどれだけ具体的にイメージできているでしょうか。また保護者の方も一緒になって考えて欲しいと思います。保護者の方で大学受験を知っている方でも、みなさんの時の「受験や大学」と今のお子さんが受けようとしている「受験や大学」とでは大きく変わっていることを知ることが大切です。大学パンフレットを見る、大学のHPにある紹介動画を見る、オープンキャンパスに子どもと一緒に参加するなど、保護者が大学を知るためにできることはたくさんあります。最近の大学オープンキャンパスでは、保護者のための説明会や講演を用意しているところも増えています。費用の説明会なども行っているところも多くあります。ぜひお子さんとの情報共有の機会として積極的に参加してください。

3年生はこれからラストスパートです。すでに進路が決まった人はきちんと最後まで新津高校生として学校生活を過ごしてください。これから受験に向かう方はガイダンスでもお話ししたとおり、これから保護者がやるべき1番のことは家庭で子どもが健康に過ごせる環境作りです。もちろん金銭面の準備もお願いしなければなりません。子どもも受験で気持ちが不安定な時期でもあります。勉強に専念できるようにあたたかい環境を用意してあげてください。うまく行かないこともあります。子どもたちの心の支えとなれるのは保

護者の方です。気持ちが優しい子どもほど、親に心配をかけないようにしなければならないと気を遣っています。子どもの気持ちを尊重し、これからの生徒の将来を応援してあげてください。受験費用、入学手続き費用、大学生活費用と多くの経費も必要になります。ご負担をおかけしますが、ご協力よろしく御願います。

## ○デジタルライゼーションの流れ

前号でもデジタル機器の活用場面の増加について書きました。今年度特に3年生は大きな変化がありました。大学入学共通テストの出願が紙ではなくすべてWebでの出願となりました。個人のメールアドレスをログイン認証や確認通知に使うために学校では一斉に行わず個人での作業としました。入金完了までの時間がかかった生徒が多くいました。このあとの大学一般受験での出願も出願から検定料の支払いまでが同じような手続きの流れになります。出願期間内にWebで登録し、支払い完了後、次のステップへ進むといった流れになります。このような作業に必要な個人メールアドレスを使いこなす(受信設定)、コンビニ支払いを行うといったことも必要な経験となります。また、受験票や出願書類郵送封筒表紙のカラー印刷が必要になるので、ご自宅にカラープリンターを用意してほしいと以前からお願いをしていたところですが、9月に親師会が設置している有料コピー機を新型機種に入れ替えてもらい、スマートフォンやタブレットからエアープリント(無線印刷)が可能な機種を進学相談室に設置してもらいました。これにより学校でも有料カラー印刷ができます。生徒にとってスマホは動画を見たり、ゲームをしているばかりの機械かもしれませんが、便利な使用方法がたくさんあり、今後スマートフォンを使って行う登録作業や学習活動も増えてくると思います。保護者のかたからもClassiを利用していただいていると思います。お子さんの模擬試験の結果も紙ではなくWeb上で結果リソース後すぐに見ることができるといいますので、活用していただければと思います。

## ○年内入試

12月までに大学が試験を行い、合格を出す総合型選抜、学校推薦型選抜をいわゆる「年内入試」と呼びます。これらの選抜方式では学力試験のみで評価を行ってはいけないことになっています。つまり、学力以外の生徒の力として、面接で生徒の意欲を知り、小論文で論理的思考力などを見ることで評価をする選抜方法です。昨今早く合格を決めたいという理由から、これらの選抜方式に出願する生徒がいます。しかし、自分が行きたい大学に対する強い気持ち、学びたい専門分野への関心がなければ受かりません。また、不合格になった場合には、そのショックを乗り越えられる力がないとそのあとの一般選抜への学習ができなくなってしまうと思います。簡単に言うと「明るく活発な打たれ強い人」と言うとイメージができるでしょうか。世間の風潮に流されるのではなく、お子さんの特性をよく理解したうえで入試制度を効果的に利用することをお勧めします。

編集  
後記

文化講演会の後、受験を控えたある3年生が、「『自分の将来の夢の現実の姿をよく知る必要がある』という児美川先生のお言葉に触発されたので」と、めざす職業について調べていました。インフルエンザ感染予防のため、2年6組以外は各クラスでリモートでの視聴となりましたが、将来のキャリアについて考えることができたようです。秋陵会・親師会の皆様、ご来校ありがとうございました。講演会が、激動する社会に生きていくために「新しい視点を手に入れる」機会となれば幸いです。

文化講演会の他にも秋陵祭、部活動の大会など、2学期もさまざまな行事がありました。親師会報を通じて、秋陵会、親師会の皆様にも生徒の活躍をお届けします。今後もよろしくお願いたします。